

平成29年度 学力向上を図るための全体計画

墨田区立中川小学校

教 育 目 標
○よく考え、進んで学習する子 ○思いやりの気持ちを持ち、仲良くする子 ○からだをきたえ、ねばり強く努力する子（重点目標）

1 学習指導の重点（学力・体力の向上を目指す）

- 全ての子どもが熱中する授業、学ぶ楽しさ・わかる喜びが味わえる授業を創造する
- ・教職員は、意図的・計画的な指導を行う。
- ・教職員は、教材研究に努める。
- ・教えるべきことは教え、育てるべきことは育てる授業に努める。
- ・児童がわかる授業、成就感を味わえる授業の構築に努める。
- ・「中川学習スタンダード」に基づいた学習スタイルを継続していき、学習規律の徹底に努める。
- ・各教科等において、ICT機器を活用した教材の工夫や指導の充実・改善を図る。
- ・体育科の指導においては、墨田区教育委員会研究協力校としての機会を生かし、教員の授業力を伸ばし、一層の指導の充実に努め、児童の体力向上を図る。

2 平成29年度墨田区学力調査の結果から

【国語】

- 「国語への関心・意欲・態度」の観点では、全学年、全国の平均正答率を上回っている。特に、3年が5.9ポイント、4年が12.1ポイント、6年が8.4ポイントと大きく上回っている。
- 「書く力」については、全国平均正答率を2年が3.1ポイント、3年が13.5ポイント、4年が25.9ポイント、5年が7.8ポイント、6年が11.7ポイントと全学年大きく上回る結果となった。
- ▼「話す力・聞く力」の観点では、2年で0.5ポイント、3年で0.3ポイント全国平均正

答率を下回った。

- ▼「言語についての知識・理解・技能」の観点では、3年で3.3ポイント、5年で2.2ポイント下回った。

【改善のポイント】

毎日の授業の中で、文章の構成を捉えさせたり内容の要約をさせたりする活動を取り入れていく。また、接続語や指示語など文章をつなげる言葉について言語事項として確実に定着できるように指導する。「書く力」に関しては、引き続き作文指導や感想・意見を通して文章表現力の充実を図る。

【社会】

- 4年では「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」が、全国の平均正答率をそれぞれ3.6ポイント、6.4ポイント上回った。
- 5年では「社会事象への関心・意欲・態度」が全国の平均正答率より3.8ポイント上回っている。
- ▼6年では、全観点で全国平均正答率を下回っている。特に、「社会的な事象への関心・意欲・態度」が-8.4、「社会的な事象についての知識・理解」が-5.6ポイントと低い。
- ▼5年の「観察・資料活用の技能」では、全国平均正答率より3.4ポイント低い。

【改善のポイント】

I C T機器を活用して、児童に興味・関心をもたせるような教材を作成し、指導の充実を図る。

各学年でグラフや地図の読み取る活動を多く取り入れ、資料を基に考える活動を充実させ、社会的な思考力や判断力を身に付けさせる。

【算数】

- 全学年・全観点で全国平均正答率を上回った。特に、「算数への意欲・関心・態度」では、2年で6.2ポイント、3年で3.3ポイント、4年で3.2ポイント、5年で5.9ポイント、6年で12.8ポイントと全学年3ポイント以上全国平均正答率上回っている。
- 「数学的な考え方」では、2年3.5、3年3.9、4年2.8、5年5.0、6年7.7ポイントと全学年全国平均正答率を2ポイント以上上回っている。
- 「数量や図形についての技能」の観点においては、各学年全国平均正答率より3ポイント以上上回ることができるように指導していく。

【改善のポイント】

操作や体験活動など算数的活動を多く取り入れ、I C T機器を活用しながら知識の定

着を図るとともに、引き続き、子どもたち同士の学び合い活動を取り入れ「数学的な考え方」及び「数量や図形についての技能」を高めていく。また、授業の終末には振り返りやまとめの場面を取り入れ、学習の振り返りを丁寧に行っていく。

【理科】

○4年「観察・実験の技能」の観点では、全国平均正答率を5.4ポイント上回っている。

▼「自然事象への関心・意欲・態度」では、4年－3.8、5年－7.3、6年－5.4ポイントと全国平均正答率を下回っている。

▼「観察・実験の技能」が5年で－5.9、6年で－4.9ポイントと全国平均正答率を大きく下回りっている。

▼「自然事象についての知識・理解」では、4年で－2.9、5年で－9.6、6年で－3.8ポイントと全国の平均正答率を下回っている。

【改善のポイント】

観察・実験を通じた体験活動をもとに知識の習得を目指していく。また、科学的な思考・表現に関しては自分の予想に基づく観察・実験を行い、結果に対する自分の考えを説明できるような授業展開を工夫して行う。

3 学力向上のための主な取り組み

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

- ①基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学力調査を年3回（4月・9月・2月）実施する。区学力調査の結果を受けて、国語・算数を中心に課題の見られた問題や領域について学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。
- ②全国学力状況調査（6年）、区学習状況調査（2～6年）東京都児童の学力向上を図るための調査（5年）の事前指導をする。前学年の学習内容や調査問題の復習や学力調査の受け方・心構えなどを指導する。
- ③朝学習の時間（8：20～8：35）に、計算タイム（計算・文章問題プリント）、漢字タイム（漢字プリント）、読書タイムを計画的に実施する。
漢字・計算プリントについては、「東京ベーシックドリル」「墨田スタンダード」を活用し、前期は前学年の内容、後期は当該学年の内容で計画的に取り組む。
- ④算数の習熟度別指導を充実させる。単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態を応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。特に、DE層の児童に対

しては、学力向上支援サポーターと連携を図った個に応じた学習支援を行い、基礎学力の定着を図る。

- ⑤基礎学力の補充を目的とした放課後補充学習教室「中川きっずワーク」を実施する。学習支援指導員を活用して、基礎学習力の定着、学習内容の補充指導が必要な児童を対象に、週3回を実施し、国語・算数を中心に基礎・基本の定着を図る。また、夏季休業中（7・8月）には補充学習教室を7日間実施する。

（2）思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫

- ①墨田区教育委員会研究協力校として2年間の研究してきた算数科における問題解決型の学習を社会科・理科の学習にも積極的に取り入れ、学び合いを中心とした授業を行っていく。
- ②タブレット端末、電子黒板、デジタル教科書などを効果的に活用し、学習内容をわかりやすく指導する。授業の導入や児童が発表する場面、考えを共有する場面で活用し、児童の関心・意欲・態度を高めるとともに、思考力・表現力を育成する。
- ③理科「観察・実験アシスタント」を活用し、授業でTT指導を行うことで、観察・実験における技能を高める。また、観察・実験を通して自然の事物・現象について実感を伴った理解を重視し、知識・理解に関連付けた指導を行い、科学的な思考力・表現力を育成する。さらに、理科室の器具や準備室などの整備を行い、学級担任が観察・実験がしやすい環境をつくり、授業の充実を図っていく。
- ④校内学習状況アンケート（意識調査）を年2回（4月と2月）実施し、児童の学習への取り組み状況を把握するとともに、それに基づいた授業改善を図っていく。
- ⑤読書月間を年2回（6月・11月）実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。また、ティチャーズブックトーク、縦割り班（レインボー班）による読み聞かせや図書ボランティアによる読み聞かせ（月2回）を行い、読書に対する興味をもたせ「読み取る力」を育成する。
- ⑥各教科の単元や領域の学習内容にそって、外部講師としてゲストティチャーや学校支援ネットワーク事業を利用した出前授業などを実施する。講師から経験や体験に基づいた専門的な話を聞くことにより児童の学習への興味・関心を高めるようにする。

（3）家庭学習習慣の確立

- ①「中川家庭学習週間」を年3回（4月・9月・1月）実施する。「家庭学習カード」を配布し、家庭での学習内容や時間等を記録し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。また、保護者にチェックしてもらうことにより、保護者に対しても家庭学習への意識

をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。

- ②「生活リズム確認旬間」を年3回（4月・9月・1月）設定し、「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭で徹底させることで、家庭での生活リズムを整え学習に向き合う態度を育てる。

（４）校内研究を通して授業力を高める

- ①体力向上が学力向上につながるという意識のもと、研究主題「『できた 楽しい もっとやりたい』体育学習～運動の楽しさを味わいながら、自ら考え工夫して運動に取り組む児童の育成～」として、全教員が授業研究を行い、教師の授業力を高め、児童の体力の向上を図る。

東京都統一体力テスト、意識調査をもとに、児童の体力と運動に対する実態を分析し、運動する楽しさを味わい、児童一人一人が主体的に運動に取り組む授業を目指し、体力の向上に資するようにする。

- ②墨田区教育研究奨励費（グループ研究）を活用して、引き続き算数の研究を進めている。5回の校内研究会を実施し、教員の授業力向上に努める。学び合い活動を重視した問題解決型の授業を通して、児童の「数学的な考え方」を伸ばす指導を行っていく。

全教員・学校全体が一体となって児童一人一人の学力向上に向けて取り組んでいく。

「中川学習スタンダード」を核にして児童の授業に対するよりよい姿勢を身に付けさせる。また、児童一人一人が学力調査や小テストなどで昨年度・前回と比べ、どのくらい伸びたか、どの程度定着できたかを基準に全教員で全児童の学力の定着・伸長を図っていく。